

【アイロンがけ】

アイロンがけには、『温度』『かける時間』『押さえる力』『水分』の4つの要素があります。

《温度》

取り扱い絵表示

		高温 210 以下 綿・麻素材など
		中温 160 以下 シルク・ウール・ポリエステル・レーヨン
		低温 120 以下 アクリル・アセテート
		アイロン不可

{ アイロンをかける前には、必ず絵表示を確認しましょう。 }

《かける時間》

この場合の時間とは、一カ所にアイロンが滞在する時間のことで、動かす手の早さのことです。

早すぎるとシワが伸びませんし、長すぎるとテカリ・アタリができてトラブルとなります。

同じところを何度もあてなおすより、ゆっくりと滑らしながら1回で伸ばす方がキレイにアイロンがけできます。

《押さえる力》

ウールやポリエステルは、アイロンがけで「テカリ」が出ることがあります。

この絵表示があるものには、必ずあて布をしましょう。
パイル・コーディロイなどは、スチームアイロンを1cmくらい浮かして、浮かしアイロンをかけましょう



《水分》

アイロンがけには、スチームや霧吹きなどでの湿り具合が必要です。

スチームアイロンでなくも、あて布の上から霧吹きし、アイロン掛けすれば、同じような効果が得られます。

ワイシャツなどは、全体が少し湿った方がアイロンがけがやりよいです。

シワをつくらないように軽めに脱水し、乾燥も湿りが残る程度にして、アイロンがけをするとよいでしょう。

《ワンポイント》

アイロンって、そこから見ると 先のとんがった??
こんなカタチをしていますよね。 何故でしょうか。

何でもイイですから、布を広げて、その上にアイロンをおきましょう。

そして、アイロンを持たずに、アイロンの お尻を指で押してみましょ。先端が、布をかき分けてシワをつくらないはずです。

つまり、アイロンは一定の力で押さえながら、進行方向に進めば、シワが出来ない構造になっています。

この構造をフルに活用すれば、よりアイロンがけが楽になります。

アイロンをかける前に、少し霧吹きで湿らせてから、アイロン台に広げます。手で叩きながらシワを伸ばして、生地とアイロン台とがなじむようにカタチを整えます。

そしてアイロンの進行方向側を、左手で少し引っ張りながらアイロンを滑らせます。

アイロンは、少し後ろの方を持ち、軽く押さえます。すると、アイロンの先端が自然と浮き気味になり、スムーズにアイロンがけができます。